

ワンポイント **GIGA** 通信

Vol. 1



1人1台端末が整備されて今年で3年目。

日常的な端末活用が定着しつつありますが、どちらかというとICTが苦手な「基本的なアプリの使い方が分からないけれど、中々周りに聞きにくいな…。」「自身の担当する授業で児童生徒にどのように端末を活用させたらよいかイメージが持てない…」等の悩みないでしょうか。岡山県総合教育センターでは、ICTが苦手な先生方も、自身の業務や担当する授業で、**1人1台端末を日常的に活用**することができるヒントとして、「**まずはここから!**」という具体的な取組事例を紹介していきます。本通信は、主に義務教育段階（小・中学校等の児童生徒）を対象としていますが、高等教育段階においても、必要に応じて参考にしてください。

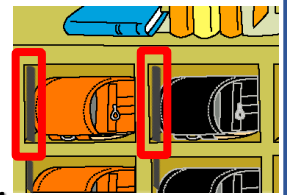
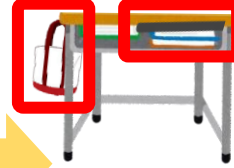
今回のポイント：「端末をすぐに手に取れる場所に置く」



登校後、充電保管庫から、**すぐに**端末を取り出す。



自席で電源オン
→クラウド上で健康観察を入力。
グループウェア等で、本日の
授業予定、連絡事項等を確認。



机横の手さげ、机の中、個人のロッカー等**すぐに**取り出せる場所に端末を収納。**児童生徒の必要感やタイミングで、端末を活用。**

下校時は、充電保管庫に戻す。

(もしくは、家庭に持ち帰り**自宅でも学習に活用**。必要に応じて充電。)

本実践で育成できる児童生徒の資質・能力

端末活用の場面が自然と増えることで、児童生徒の端末活用スキルが向上します。

また、児童生徒の必要感やタイミングで端末を活用する判断を自身で行わせることによって、**自己判断**や**自己決定**の場面が増え、主体性や問題発見・解決能力の育成にもつながりやすくなります。

本実践における教師のメリット

(一斉指導の場面)

児童生徒が一斉に充電保管庫に集うことがなくなり、テンポよく授業を進めることができます。

(個別学習の場面)

教師自身がICTが苦手な場合でも、ICTが得意な児童生徒に教えてもらったり、児童生徒同士で教え合ったりすることで、教師自身も学ぶことができます。



「こんなときどうする？」端末活用 Q&A

Q. 端末を児童生徒に自由にさせると、授業中に「学習に無関係なゲーム等の遊び」や、休み時間に「不適切な使い方（YouTube視聴やWebサイト閲覧）」等をしないか心配です。

A. 端末本来の活用方法やルールを児童生徒と共通理解しつつ、問題行動は個別対応しましょう。

授業では、児童生徒一人一人が、学習課題や学習内容を「自分ごと」として取り組めるよう授業改善をしていくことが肝要です。

休み時間の活用については、能力や年齢等に応じて異なりますが、児童生徒と教師で端末本来の活用方法やルールをしっかりと話し合い共通理解した上で、活用の有無を決定、運用することが大切です。

場合によっては、一時的に利用を制限することも想定されますが、GIGA スクール構想の趣旨を踏まえ、活用の制限は真に必要な場合にのみ留めましょう。不適切な活用が繰り返される場合は、従来の生徒指導と同様に個別対応を原則としましょう。

参考「GIGAに慣れる～端末利用のルール決めと意識化～」
文部科学省GIGAStuDX
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/9.html>

